

# “輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

## 自分を見つめる 人を見つめる

校長 丹羽正昇



先日、私が体育館に行ってみると、6年生がそこに集まり、「ひぐみをいま以上によくするにはどうすればよいのか」「ひぐみのよいところとはどんなところだろう」「ひぐみをこんな学校にしたい」という話し合いをしていました。私は、前々から6年生と学校のことを話したいと思っていたので、一緒に話すよい機会だと思い、その様子を見守ることにしました。

まずは、グループで話し合っている様子を観察し、6年生が思い描くひぐみの理想像をメモしていきました。その主なものとしては、「仲がよい」「真剣に取り組む」「思いやりがある」「笑顔がある」「いじめがない」「差別がない」「相手のことを考える」そして、「人気のある」など、ひぐみ愛に満ちた意見や考えがたくさん出ていました。ここではご紹介できないほど、他にも様々なものが出されましたが、どの子もよく考えているなど感心しました。希望や夢をもって学校に通うこと、それは子どもにとっての最大のモチベーションであり、大人にとっては、いちばんの安心です。

6年生の様子を観察していると、さらに気付いたことがあります。それは、学校のよいところに光を当てて意見を言っている子ども、学校の課題に光を当てて意見を言っている子ども、その両面から意見を言っている子どもがいたことです。同じ意見を言いながらも、一人ひとりの意見の出どころが違ったのです。私たち大人から見れば、そんなことは当たり前だと思うかもしれませんが、一人ひとり違うことが前提の世の中なのですから。ただ、一人ひとりの意見や考えが違うことについては、大人の私たちでさえも突き詰めて考えることが少ないように思います。一人ひとりの意見や考えが異なることの要因。皆さんは、何だと思われませんか。

私の考えはこうです。対象とするものを見つめ方が違うから、一人ひとりに違いが出るのではないかと。対象というのは、人だったり物事だったり、言葉だったりします。それらを、どのように見つめているのかということに起因して、人は異なった意見や考えをもつのだと、私は考えています。人の見つめ方を、他の人が頭ごなしに否定することは、本来絶対にできないはずですが、しかしながら、ときとして人は、自分の見つめ方と異なる人を、否定してしまうことがあります。否定された人は、その理不尽な仕打ちにショックを受け、大きく傷ついてしまいます。

そのようなことにならないためには、どうすればよいのでしょうか。実は、さほど難しいことではありません。自分以外の人の話をしっかり聞くということですし、お互いによく話し合うということです。人の話を聞く、一緒に話し合うという、それらができないだけで、お互いに傷つけ合い、人間関係が悪化し、最悪の場合には、国や地域間での戦争を引き起こすことに繋がっていくのです。自分のことを分かってほしい、理解してほしいと思うのであれば、他の人のことを分かろうとする、理解しようとするのが大切です。一方的に、自分の意見や考えを押し付けるなんて、もってのほかです。そして最も大切なのは、「〇〇さんと話したい」「〇〇さんのことをもっと知りたい」「〇〇さんのことをもっともっと見つめたい」というような、他の人に関心を寄せるということです。

自分を見つめるように、人を見つめる。

6年生が話し合っている様子は、そんな優しいまなざしにあふれたものでした。6年生のやさしさの輪。学校全体に広がり、「やさしさあふれるひぐみ」になるといいなあ。